

令和 6 年度医療的ケア児等の避難訓練実施報告

福祉サービス部障がい者支援課

実施日時	令和 7 年 3 月 25 日 (火) 13 時 30 分から 14 時 40 分
避難対象者	2 名 (1 名体調不良により不参加) A さん 11 歳 男性 気管切開、鼻口腔吸引、経管栄養、身体障害者手帳 1 級 B さん 47 歳 女性 定期的な導尿、身体障害者手帳 1 級、療育手帳 (A) の 1
訓練参加者	対象者、対象者の両親、対象者の相談支援専門員、ぼらりす、特別支援学校教頭、特別支援学校教員、下志津病院職員、障がい者支援課長、基幹相談支援室長、基幹相談支援室職員
見学者	医療的ケア児等支援協議会委員[相談支援専門員(ひだまり、あわい、かけはし)]、下志津病院職員、次期危機管理監
避難先	各自宅 → 四街道特別支援学校 (四街道市鹿渡 934-45)
避難訓練対応時間	
13:30	(想定) 地震発生 自宅内被害状況確認⇒自宅避難判断 停電長期化想定により避難の判断 家族より障がい者支援課に避難所の開設確認連絡 障がい者支援課より四街道特別支援学校へ避難所の開設可否連絡 ⇒避難所開設可能の回答あり 障がい者支援課より危機管理室へ避難実施の連絡 障がい者支援課よりご家族へ避難可能の連絡
13:45	対象者の車が自宅を出発 (A さん、B さん 車での移動避難)
13:54	A さん避難所到着
13:58	A さん避難所受付 A さん避難場所での電源確保、体調確認
14:02	B さん避難所到着
14:07	B さん避難所受付 B さん避難場所での電源確保、体調確認
14:12	振り返り
14:40	終了

<p>振り返り・検討事項</p>
<p>家族（振り返り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に避難する親の物はあまり準備していなかったもので、実際の避難物品はもっと増える。 ・本人の服は3日分、親の分は1日分持ってきた。おむつは1週間分。サイズが変わる時期なので、両方のサイズを持ってきた。 ・夜間に吸引が多いので避難所で過ごすのにどの程度保護者が大変か分からない。 ・訓練を何回もやることによって充実してくるのではないかと感じた。また、それによってどこに課題があるのかわかってくると思う。
<p>家族（検討事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長く避難所にいるとカテーテルや人工鼻など不足することが考えられるが、補充することができるのか。→主治医に相談をして病院等に取りに行く必要があると考えられる。 ・布団、段ボールベット、パーテーションなどがあるとよい。 ・避難所で過ごすとなると、体位交換のクッション、体温がこもってしまうので、アイスノンが必要。継続するには再度凍結する必要などがある。冬は布団で温めれば良いが、暑い時期は冷房対策も必要になる。 ・おむつ交換が必要なので、人の目もあるが臭いも気になるため、パーテーションなどの区切りは必要。 ・床に直接寝るのは衛生的にも介護負担的にも良くないので、段ボールベッドなど高さがある物があるとよい。 ・犬と猫が家にいて、避難先に同行できないとなると家族が家に残ることも考えられる。
<p>支援者（振り返り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に準備ができていて、日頃から災害に対して準備していた。 ・避難時に自宅の電気確認、ブレーカーを落とす対応を行っていた。 ・普段ショートステイの利用があり、その荷物に合わせて準備していた。 ・自宅で犬と猫を飼っていて、関係用品が避難時には妨げになる可能性あり。 ・事前の準備が重要であると家族に認識してもらうことで、自助の啓発につながる。市の災害支援の目的になる。 ・市での取り組みを広報する必要がある。避難できない、避難先は安全じゃない。そもそも逃げようと思っていない人もいる。今回のことを宣伝してもよいと思う。 ・避難所として何を用意すればいいのか。それぞれ必要なものは異なってくると思うが、共通しているものは用意したいと思う。
<p>支援者（検討事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生用品を置くために、最低限机は用意してあるとよい。 ・例えば机を2台つけて高いところで本人が横になれるように準備などがあるとよい。 ・避難所でプライバシーの面からだけでなく、医療的な面でパーテーションの設置をし

てほしい。(衛生面など)

・家族から避難所開設の流れを行う時は、避難所が受入れできる体制が整ってから、自宅を出るとする時間調整が必要。(訓練は準備してたからすぐに避難対応できた)

・避難先の四街道特別支援学校は右折で入るには車が多く難しいため、左折で入るには少し遠回りをする必要があった。

・2家族とも事前に対象者の備品が準備されていて、実際の災害時にはそこまで準備していないのではないかと思われる。日頃の状況に近い形で準備を促す必要がある。

・今は避難できるが、家族の体力が落ちていくと難しくなっていくと思われる。

・家族から避難所開設の相談をして、その後に避難したが、避難所に連絡をせず避難しようとしている様子があった。今後指定福祉避難所へ登録する人に事前説明を行う必要がある。

・個別避難計画の活用、運用について今後検討していく必要がある。

・避難後の薬局の関係はどうなるのか。個別避難計画を作成する時点で調整して落とし込んでいく必要がある。

・それぞれの機関、対象者等の連絡先確認が必要であり、関係者の情報把握が必要